

はじめに 浄土真宗を学ぶにあたり

「第2章 お釈迦さまに学ぶ」で、仏教について学んできました。「第3章 親鸞聖人に学ぶ」では、浄土真宗について学びます。

仏教は、仏さまの教えであると同時に仏さまに成る教えですから、煩惱を無くしてさとり（真実を体得する）ことを目指すのですが、煩惱を無くすことができない人は、どうすればいいのでしょうか。それが、親鸞聖人が問題とされたところなのです。

親鸞聖人は、煩惱を無くすために一生懸命、修行をされました。しかし、修行をすればするほど見えてきたものは、煩惱だらけの自分の姿でした。そんな煩惱だらけの人（自分）が救われる道を求め、明らかにしてくださったのが、親鸞聖人なのです。

お釈迦さまは、教えを聞く人の性格や能力に合わせて教えを説かれたので、仏教には、多くの宗派が生まれました。現在、親鸞聖人によって明らかにされた仏教を浄土真宗と言っていますが、それは、すべての人が平等に救われていく教えであり、煩惱だらけの人が救われていく教えであり、さらに言えば、この私が救われていく教えなのです。浄土真宗の教えをしっかりと学びましょう。

1. 誕生

親鸞聖人は、1173（承安3）年5月21日（旧暦4月1日）に、京都の東南、日野の里でお生まれになったと伝えられています。父は日野有範、母に関しては確かなことはわかっていませんが、吉光女であると言われています。日野家は、藤原氏の流れをくむ貴族でした。また、親鸞聖人の幼い頃の名前は松若磨であったと伝えられています。

親鸞聖人が誕生された時代（平安時代の末）は、藤原氏を中心として長く続いていた貴族の政治が終わり、平氏が政権をとり、武家の政治へと変わっていく時代でした。また、その平氏を打ち倒そうとして源氏が兵を起こした戦乱の時代でもありました。この政権争いにとまなう数々の戦乱は、当時の人びとの心を不安にさせました。

また、そういう世の中の混乱を一層深刻にしたのは、痛ましい天災地変の続発でした。地震・大風・火災などが次々に起こり、さらに飢饉や疫病の



日野誕生院（京都市）